

# 理工学

# メディアセンター

# ニュース

# No.115

SEPT.2008

"Information and Media Center for Science and Technology" Newsletter

## 9月の開館時間

無印：通常開館 月-金 8:45-21:30 / 土 8:45-20:00

○：短縮開館… 月-金 8:45-19:00 / 土 8:45-18:00

●：閉館

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

\* 来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/service/calendar/>

\* 塾内各地区メディアセンターの9月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/200809.pdf>

## 目次

### お知らせ 2

夏季長期貸出資料の返却期限は 10月2日(木)

第13回企画展示『有人宇宙飛行への招待』

メディアセンターを評価してください!

### コラム 3

電子ジャーナルを取り巻く問題(1)

新着図書紹介『新版 スピンはめぐる：成熟期の量子力学』

### 雑誌の動き 4

## お知らせ

### \* 夏季長期貸出資料の返却期限は 10 月 2 日 (木)

夏季長期貸出により借出中でお手元にある資料は、必ずこの返却期限日までに返却してください。期限を過ぎると 1 冊につき、1 日 10 円の延滞料がかかります。また、長期貸出資料は返却期限の延長はできません。

(他地区から取り寄せた図書は所蔵地区の貸出規則に従います。図書に貼られている返却期限票 (DATE DUE) で確認してください。)

### \* 第 13 回企画展示『有人宇宙飛行への招待』

宇宙に行ってみたい、それをかなえる有人宇宙飛行は 1950 年代後半から計画され、1961 年ソ連のボストーク号の成功によって歴史が始まります。そして、1969 年アメリカのアポロ 11 号による月面着陸で人類の新たな一歩を記し、以後、開発は再使用可能なスペースシャトル計画へと移っていきます。

日本では、1992 年、毛利衛さんがスペースシャトルに搭乗して以降、向井千秋さんをはじめ 8 人が宇宙飛行士に選ばれ、実験や国際宇宙ステーション計画ミッションの実施、地上からのサポートを行っています。今年 6 月 1 日には、機械工学科出身の星出彰彦さんがスペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し宇宙に旅立ちました。理工学部キャンパスでは打ち上げ時刻にあわせ「翔べ！宇宙へ！！星出彰彦君を応援する会」を開催し、多くの方が一緒に打ち上げを見守りました。

今回の展示は、有人宇宙飛行の歴史を振り返ります。また、星出さんの関係者の方々からお借りした資料も展示していますので、あわせてご覧ください。

期間：8 月 19 日 (火) ～ 10 月 31 日 (金)

場所：理工学メディアセンター創想館 1 階

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/tenji/13th-exhibition-top.html>

### \* メディアセンターを評価してください！

メディアセンターでは、図書館の資料、サービス、スペースなどに対する改善への要求と今後の方向性を確認するために、LibQUAL + (R) (ライブカル) というウェブによるアンケート調査を実施いたします。

対象者の方には、9 月下旬に図書館に登録されているメールアドレス宛に調査への参加をお願いするメールを送信いたします。ご協力をお願いいたします。

調査期間：2008 年 10 月 6 日 (月) ～ 11 月 1 日 (土)

調査に関する Q & A ページ：<http://project.lib.keio.ac.jp/libqual/> (9 月 16 日以降オープン)

問い合わせ先：z-assess@lib.keio.ac.jp (利用者調査ワーキンググループ)

## \* 電子ジャーナルを取り巻く問題（1）

現在、理工学メディアセンターでは、電子ジャーナルの価格高騰と購読維持が大きな問題となっています。今号から、電子ジャーナル問題について利用者みなさんと問題を共有するために、これまでの経緯を振り返りながらコラムを連載します。

### 第1回 電子ジャーナル問題の背景

電子ジャーナルはインターネットの普及に伴い急速に発展し、学術情報流通のあり方を変化させてきました。特に、記事索引データベースなどの二次情報の検索結果から一次情報である論文へのリンクが実現したことで、学術情報の利用に計り知れない便益をもたらしたことはご存知のとおりです。しかしながら、出版社による価格コントロールと、さらには代替がきかないという学術情報の特性も作用して、現在ではその価格と購読維持が大きな問題となっています。

#### 電子ジャーナル市場

2000年頃を境に、出版社はなだれをうって雑誌の電子化を進めるようになります。しかし、雑誌の電子化とサービスの提供には技術力・開発力と資本投下が必要であるため、出版社の体力による格差が生じるようになりました。電子ジャーナル市場の将来性が明らかになるにつれ、学術出版社のM&Aが盛んに行われるようになり、学術情報出版業界の再編が始まります。その結果、電子ジャーナル市場は自然科学分野の商業出版社に限定すると、上位10社で収益の83%を占める寡占状態になりました。市場規模は、2006年時点での2009年の予測で255億ドル、成長率は7.2%となっています。1)

学術情報産業は、個人としての研究者と限られた数の図書館などの機関を相手としており、他の業界のような激しい競争もなく、次にあげる代替がきかない学術情報という特性も作用して、電子ジャーナルに対しては出版社による強気な価格付けが続いています。

#### 学術情報の特性

学術情報には、研究成果が共有されることによって新たな研究成果が生産されるという循環性があります。そのため研究者にとって、研究を行う上で研究成果の共有、つまり学術情報の入手は必須です。そのため、仮に電子ジャーナルの購入を中止するという選択がなされるとすれば、それは直接研究環境の大幅な後退になります。

研究者によって発表された特定の学術論文は、例えば、お茶のペットボトルを購入するときのように、ある商品が買えなければ代わりに他社の同様の製品を購入する、ということができません。論文は、そのものを入手できなければ意味をなさず、したがって他のもので代替することができません。このことも出版社による強気の価格付けを可能にする一因となっています。

以上のように、現在の電子ジャーナルの価格に関する問題は、大きくは出版社による価格コントロールが可能となっていることに起因しています。次号から、この問題に対してどのような対応がなされてきたのか、今度どのような対応の可能性があるのかについてみていきます。

今回は、電子ジャーナルの契約体系についてです。

1) Outsell. "Press Release."

<[http://www.outsellinc.com/press/press\\_releases/scientific\\_technical\\_medical\\_marketview\\_forecast\\_revenue](http://www.outsellinc.com/press/press_releases/scientific_technical_medical_marketview_forecast_revenue)>

(レファレンス担当 上岡真紀子)

## \* 新着図書紹介 『新版 スピンはめぐる：成熟期の量子力学』

朝永振一郎著 江沢 洋注 みすず書房 2008 年

本書は、雑誌「自然」（中央公論社 1950-1984）に連載されていた解説をまとめたもので、スピン発見に至る思考を辿り古典的記述不可能な量子力学的概念の真髄に迫る、朝永振一郎による不朽の名著です。今回、初版（中央公論社 1974）に懇切な注釈やスピン関連の進歩に関する解説が追加され、より独習しやすい内容となった新版として刊行されました。物理を学ばれている方にとって必読書と言える一冊です。

当メディアセンターでは他に、「物理学とは何だろうか」（岩波書店 1979）、「量子力学」（第2版 みすず書房 1969-1997）をはじめ、朝永博士の図書を数多く所蔵していますので、併せてご利用ください。

[請求記号：421.3@T14@2 配架場所：本館 2 F 一般図書] (図書担当 田中美枝子)

## 雑誌の動き

### 【刊行媒体変更】

- ・ 情報処理学会論文誌 vol.49, no.4(2008.4)  
冊子 → CD-ROM 刊行

### 【廃刊】

- ・ 学術月報 / 文部省大学学術局 -61 巻 3 号 (2008.2)
- ・ ソーダと塩素 / 日本ソーダ工業会 -58 巻 11-12 号 (2007.11-12)

◆発行：慶應義塾大学理工学メディアセンター

E-mail : [riko-info@lib.keio.ac.jp](mailto:riko-info@lib.keio.ac.jp) Home Page : <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp>

電子版のご利用はこちら→ <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/guide/publication/mcnews.html>